

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

高騰した燃料費の負担を軽減するために、各船社は7月に GRI（海上運賃一斉値上げ）や E-BAF（緊急燃料調整費）を実施し、海上運賃の修復を図っています。さらに、いくつかの船社では10月に再度 GRI を画策する動きが見られます。加えて、米中間における貿易摩擦により、米国出し中国向けの貨物が減少しており、今後の海上運賃に影響を及ぼすと予想されています。

また、今夏は台風の影響により、日本への入船遅れやその後のスケジュールにも遅延が散見されます。特に韓国・釜山港、中国・上海港での影響は大きく、貨物の滞留や本船およびその後の接続船のスケジュール遅延により全般的に日本への到着が遅れる傾向があります。

米国西岸出しは、今後農作物の輸出が増え、輸出貨物の総量が増えてくることから、しばらくの間、船腹は逼迫した状態が続き、入船の遅れが発生しやすくなると思われます。

ビートパルプ

【米国】

日本向け主産地における2018年産新穀の収穫・製糖作業は8月16日から始まっています。昨年とほぼ同時期ですが、例年よりも10日程度早い作業の開始となります。その他地域においても順次作業は開始され、来春まで製糖及びペレットの生産が続きます。

作付面積は前年に比べおよそ24,000エーカーほど僅かながらの減少となっています。作柄は地域によってバラつきがあるようですが、全体としては平年並み、あるいは僅かに平年を上回る水準の作柄が予想されています。

新穀の価格は、ヨーロッパ及び黒海周辺の穀物地帯の旱魃の影響で、ヨーロッパ向けの米国産の引き合いが非常に強く、米国内の需要も引き続き堅調なことから、昨年に比べ大幅な値上げとなっています。

【中国】

8月上旬、中国政府は米国産ビートパルプに10%の関税を付加することを発表しています。このため、現時点では中国からの買付意欲は強いものの、大きな数量を伴う契約まで踏み切れていない状況のようです。

アルファルファ

ワシントン州

主産地コロンビアベースンでは3番刈の収穫が終了しています。ワシントン州では7月下旬頃から産地周辺で山火事が発生しており、その煙により太陽光が遮られることで、圃場での乾燥期間は通常よりも長くなっています。このため、3番刈は色目が落ちた、中～低級品の発生が中心となっているようです。また、この煙によって夜露が降りにくくなることから、葉付きが劣るやや乾燥気味の品質が多くなっています。

オレゴン州

南部クラマスフォールズでは2番刈の収穫が終了し、現在3番刈の収穫が終盤を迎えています。2番刈の期間は、序盤で多少の雨が降り、一部で降雨被害が発生しましたが、その後の天候は安定しました。全体的に早刈り傾向にあり、収穫期のほとんどは天候が安定したことから、色目も葉付きも良い上級品の発生が中心となっています。一方、産地相場は米国酪農家や馬向けの需要が強く、昨年と同時期よりも高値で推移しています。

中部クリスマスバレーでは2番刈の生産はほぼ終了しています。今後1～2週間ほどで3番刈が始まる見込みです。収穫期に大きな問題は発生しておらず、品質は例年並みとなっております。産地相場については、クラマスフォールズ同様、米国内酪農家、上級品志向の輸出向けの引き合いが強く、高値のまま推移しています。

カリフォルニア州

南部インペリアルバレーでは7番刈の収穫が進んでいます。高温が続く夏場は低成分で葉付きの良くないものの発生が中心となりますが、今後は産地の気温も穏やかになってくることから徐々に品質・成分は回復してくる見込みです。

産地相場は、引き続き堅調に推移しています。背景として、米国内酪農家からの需要が安定していることと、サウジアラビアからの旺盛な引き合いが挙げられます。米国との貿易摩擦が起こっている中国向けも大きな需要の減退はないようです。

米国産チモシー

主産地コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは、2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。アルファルファ同様、産地周辺で発生した山火事による煙の影響で、

通常よりも圃場での乾燥時間が長くなっています。このため、色目の悪化や茶葉の混入割合が多くなることが懸念されますが、8月下旬からは山火事の影響は緩和されています。

産地相場は、発生量が限られる上級品については昨年と同等レベルで推移しており、生産量の多い中～低級品については軟化傾向にあります。2番刈については、まだ相場が立っていない状況ですが、輸出業者および米国内向けのバイヤーが良品を確保しようと高値で買付を行っているようです。一方、低級品は1番刈同様、軟化する可能性が出ています。

カナダ産チモシー

南部レスブリッジ地区では、1番刈の生産は終了し、2番刈の収穫が始まっています。1番刈は、上級品の発生が中心となっているようですが、作柄の良かった17年産と比較すると茶葉の混入もやや多めで、例年並みの仕上がりとなっているようです。

産地相場については、韓国からの引き合いが引き続き強く、米国産チモシー1番刈の相場が高値のまま推移していることから、昨年に比べ上昇しています。

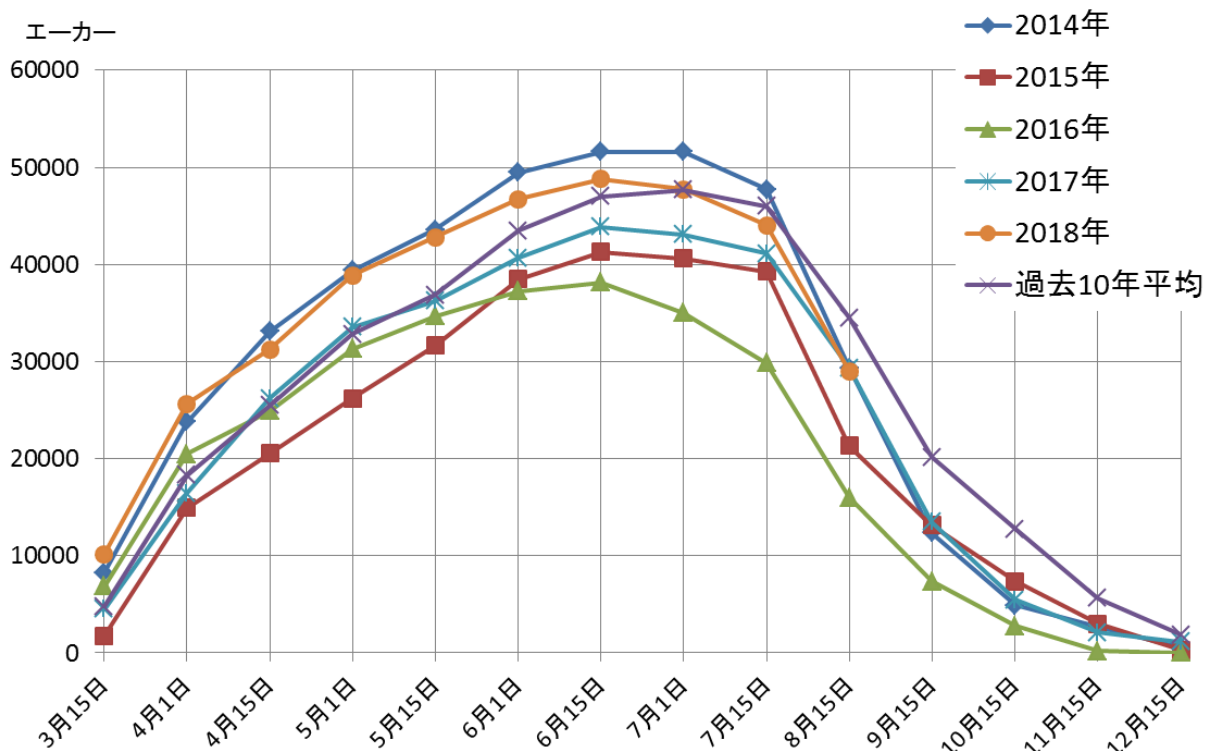
中部クレモナ地区では1番刈の収穫作業が進んでいます。しかしながら、収穫初期の天候が不安定であったことから、上級品の発生は非常に限られており、中～低級品の発生が中心となる見込みです。また、生育期の降水量が例年よりも少なかったため、収量も例年の半分程度となる見込みで供給力も大幅に減少すると予想されます。

スーダングラス

8月15日時点の作付面積は前年同月比99%となっています。産地では2番刈の収穫が終盤を迎えていますが、圃場によっては雷雨の影響で雨当たり品が発生しています。また、産地相場低迷の影響から1番刈でスーダンの生産を中止した生産農家も多く見られます。

2番刈の品質については、高温・多湿の影響を受け、茎のサイズが中～太目の色抜け品の発生が中心となっています。2番刈のため茎の太さにはバラつきがあり、茶葉の混入もあり、品質は総じて例年並みとなっています。

産地相場は、茎細の上級品は色抜けの有無に関わらず、発生量が少ないことから高値で取引されています。一方、中～低級品については発生量が多く、相場は昨年に比べ弱含みで推移しています。しかしながら、テキサス州やコロラド州で早魃の影響が出ているため自給粗飼料が不足しており、その代替として米国内の肥育農家や酪農家からの低級品への需要が強く、産地価格を下支えしています。



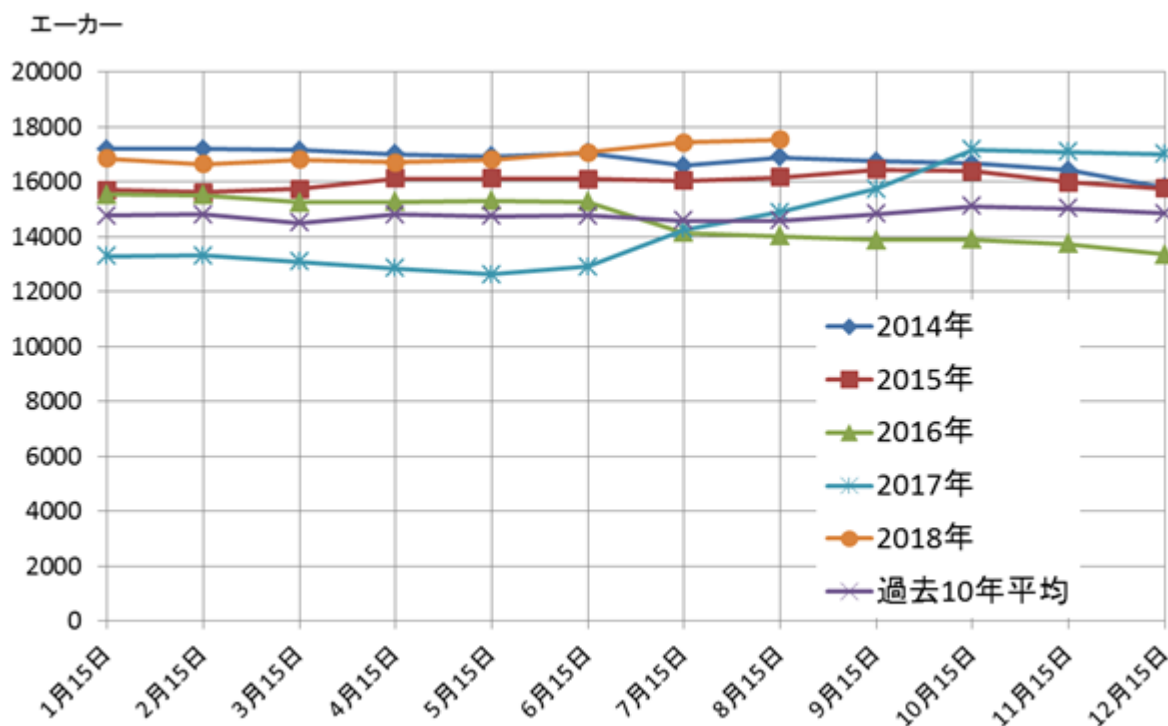
インペリアルバレー スーダン作付面積 (2018年8月15日時点) 単位：エーカー

クレーングラス (クレーンは全酪連の登録商標です)

8月15日時点の作付面積は前年同月比118%となっています。現在、クレーングラスの収穫は4番刈が終盤を迎えています。3番刈は雷雨の影響でやや収穫が遅れましたが、4番刈は夏場の高温・多湿の影響を受けて変色した圃場も一部で見られるものの、総じて適期に収穫された良品が中心となっています。

新穀になってからもチモシーの割高感が残っていることや、豪州産オーツヘイの低級品の在庫が減少していることから、クレーングラスへの引き合いは強まっています。また、韓国からの需要も引き続き堅調であることから、産地相場は昨年比高値のまま堅調に推移しています。米国金利の上昇もあって、今後の値上げは不可避と考えられ

ます。



	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2014年	17192	17192	17140	17005	16930	17038	16578	16873	16745	16659	16413	15786
2015年	15691	15605	15724	16111	16111	16086	16026	16152	16430	16372	15974	15746
2016年	15526	15501	15234	15255	15295	15262	14142	14002	13871	13896	13739	13354
2017年	13276	13296	13092	12846	12614	12901	14255	14875	15722	17159	17088	16999
2018年	16832	16628	16796	16695	16794	17071	17429	17531				
過去10年平均	14754	14803	14490	14800	14744	14768	14586	14570	14813	15101	15024	14835

インペリアルバレー クレイングラス作付面積（2018年8月15日時点）単位：エーカー

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは18年産ストロー類の生産が終了しています。収穫期の天候に恵まれたことから品質面では大きな問題は発生していません。産地には繰越在庫はなく、すでに新穀の出荷が始まっています。作付面積はフェスキュー、アニュアルライグラスは増加していますが、ペレニアルライグラスは減少しています。17年産の繰越在庫もなく、新穀の生産量も大きく増えていないため、特にペレニアルライグラスストローは18年産においてもタイトな状況が続くことが予想されます。

韓国からの安定的な需要はあるものの、17年産の韓国国内の自給粗飼料生産も順

調であったことから、新穀の価格は17年産後半の価格よりもやや弱含んで推移しています。

豪州産オーツハイ

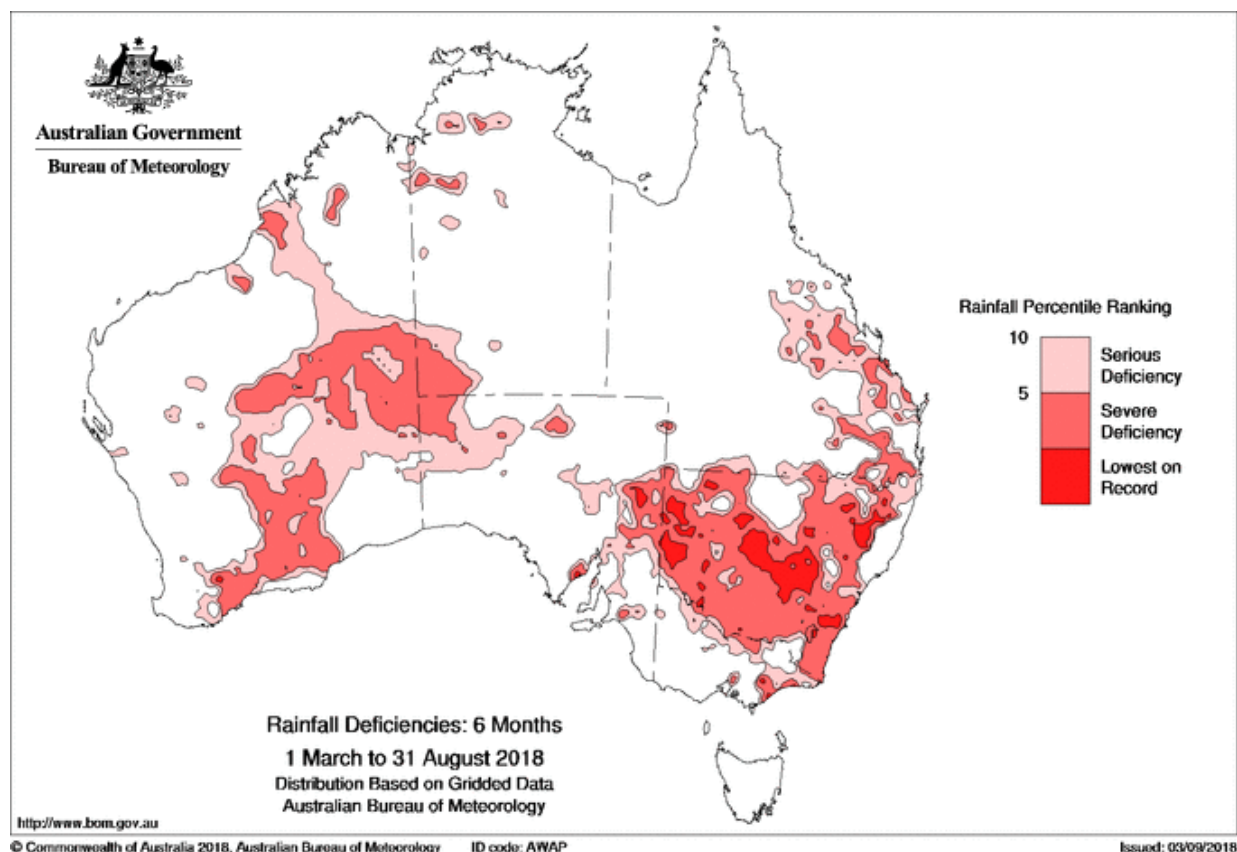
豪州国内の状況

オーツハイへの需要は日本のみならず、中国、韓国および台湾から引き続き堅調で、各サプライヤーとも出荷は順調に進んでいます。

東豪州および南豪州では、早魃の影響で豪州国内の畜産農家から低級品オーツハイへの引き合いが強まっており、生産農家及び各サプライヤーの余剰在庫の多くが豪州国内へ流れました。

豪州政府は早魃の影響を受けている畜産農家の支援のために、穀類、乾牧草の購入およびその輸送に対して補助金を出しています。この補助金を利用し、西豪州から東豪州へ乾牧草を転送する動きも見られ、産地相場全体を下支えしています。

いまだに早魃の状態は続いており、今後も降雨の見込みが少ないことから、17年産の在庫は国内需要に消化され続けています。このため、例年よりも繰越在庫が少ない状況で新穀の収穫シーズンに突入すると予想されています。



豪州気象局ホームページより引用 3月ー8月までの早魃状況（濃い赤色ほど深刻な早魃を示す）

新穀の状況

西豪州では生育期に十分量の降雨があったことから生育は順調で、収量は例年並みかそれ以上になると見込まれています。9月はやや乾燥傾向との長期予報が出ていますが、既に1mを超えるまで生育が進んでいる圃場が多く、現時点では10月初旬に収穫が開始される見込みです。

南豪州では一部の地域では十分量の降雨があるものの、旱魃が深刻な地域もあり、例年の8割ほどの収量になると予想されています。

東豪州の旱魃はさらに深刻で、生育期を通して降水量が少なく、生育が不十分で、一部では立ち枯れしている圃場もあります。このため、東豪州の収量は例年の6割程度に留まると予想されていますが、地域によっては極めて単収が低いところも出てきそうです。



東豪州 ほぼ生育していない圃場（8月撮影）

産地相場については、豪州国内から低級品への引き合いは引き続き強く、低級品相場は高騰しています。上～中級品についても、低級品ほどではないものの、相場は引き続き堅調に推移しています。

旱魃の影響と繰り越し在庫の減少、さらには新穀の生産量の減少が見込まれていることから、新穀価格は大幅に上昇すると予想されています。

以 上